

(独) 国際協力機構 (JICA) /
日・アフリカ農業イノベーションセンター (AFICAT)



JICA食と農の協働プラットフォーム (JiPFA)

日・アフリカ農業イノベーションセンター (AFICAT) の進捗報告



2025年4月1日 (火)

「アフリカ地域サブサハラアフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化展開に係る情報収集・確認調査」

(株) かいほつマネジメント・コンサルティング

発表概要

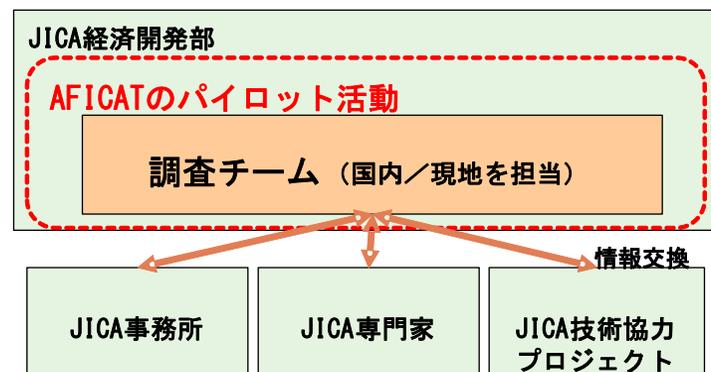
- 1) AFICATの背景
- 2) AFICATの進捗

1) AFICATの背景

イベント／調査名		主な活動
2019年8月	第7回アフリカ開発会議（TICAD7）	官民ビジネス対話でAFICATを設置することが日本の民間セクターから提案された。
2020年4月～2022年2月	アフリカ地域先進農業技術の導入促進に係る基礎情報収集・確認調査（先先行調査）	アフリカ4カ国でAFICATをどこにどのように設置できるか提案された。
2022年2月～2024年2月	アフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化振興にかかる情報収集・確認調査（先行調査）	上記の提案に基づき、 アフリカ5カ国でパイロット活動 としてAFICATが稼働した。得られた経験や教訓を基に、中長期的なAFICATの実施体制や活動案が提案された。
2024年2月～2026年2月	アフリカ地域サブサハラアフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化展開に係る情報収集・確認調査（QCBS-ランプサム型）（本調査）	先行調査で提案されたAFICATの実施体制や活動案を基に、AFICATを稼働する。

JICA側の実施体制

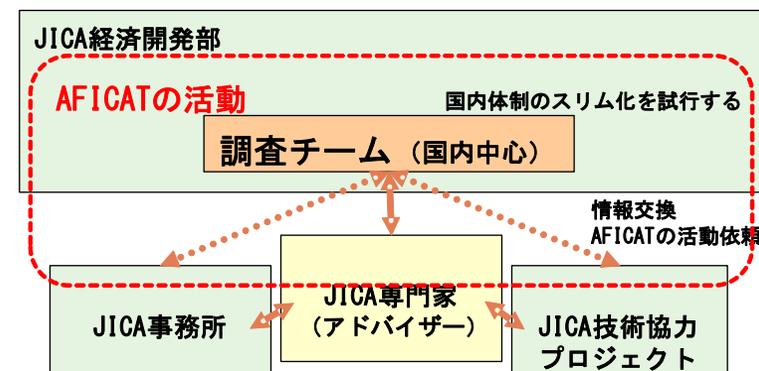
パイロット活動（先行調査：2022年2月～2024年2月）



- 現地政府機関と連携しつつ、調査チームが日本国内/現地でパイロット活動を実施。



本調査（2024年2月～）



各国にいるJICA専門家（アドバイザー）が各国におけるAFICATの活動を担当（アドバイザーがいる場合*）

*ケニア、ナイジェリア、タンザニア

- AFICATを現地で運営する組織（AFICAT委員会/AFICAT事務局）が組織され*、JICA専門家/JICA事務所が運営を支援。
*ケニア、ナイジェリア、コートジボワール
- 調査チームは日本国内の活動を中心に実施。

2) AFICATの進捗：①各国の実施体制の構築（本フェーズからの取り組み）

国	AFICAT委員会/カウンターパート機関の構成	進捗
タンザニア	<ul style="list-style-type: none"> 農業省農業機械化付加価値局 	<2024年> <ul style="list-style-type: none"> 12月17日付：AFICAT再稼働に関する合意文書署名。 12月12日：AFICAT活動計画が農業省副次官らに了承。
ケニア	AFICAT委員会/AFICAT事務局の設立 <ul style="list-style-type: none"> 農業畜産開発省農業機械化サービス局 農業セクターネットワーク ジョモケニヤッタ農工大学（追加） 	<2024年> <ul style="list-style-type: none"> 4月26日：第1回AFICAT委員会開催。 5月22日：第2回AFICAT委員会開催。AFICATの新体制開始に関する公式文書署名済、AFICAT活動計画策定済。 5月30日：キックオフセミナー開催。 8月30日：第3回AFICAT委員会開催。 <2025年> <ul style="list-style-type: none"> 1月28日：第4回AFICAT委員会開催（JKUATが委員会に加盟）
ナイジェリア	AFICAT委員会/AFICAT事務局の設立 <ul style="list-style-type: none"> 連邦農業農村開発省（FMAFS）連邦農業局 FMAFSアグリビジネスマーケティング局 国家農業機械化センター ナイジェリア産業鉱物農業商工会議所 	<2025年> <ul style="list-style-type: none"> 7月2日：第1回AFICAT委員会（キックオフセミナー）開催。AFICAT委員会設立に関する公式文書署名済。 12月17日：第2回AFICAT委員会開催。
ガーナ	<ul style="list-style-type: none"> 食料農業省（MoFA）農業機械化サービス局 MoFA作物開発局 ガーナ灌漑開発公社 	<2025年> <ul style="list-style-type: none"> 3月12日：AFICAT活動計画（案）が関連機関によって作成。
コートジボワール	AFICAT委員会/AFICAT事務局の設立 <ul style="list-style-type: none"> 農業農村開発省機械化局 農業農村開発省コメ振興局 コメ振興機構 コートジボワール商工会議所 	<2024年> <ul style="list-style-type: none"> 12月5日：AFICAT委員会の合意文書署名。 <2025年> <ul style="list-style-type: none"> 2月5日：キックオフセミナー開催。

- ケニア、ナイジェリア、コートジボワールでは、政府機関に加え商工会議所など民間セクターの代表をメンバーとするAFICAT委員会が設立され、AFICATを運営する体制を作った。ケニアでは大学が新たにAFICATの運営母体に参加することになった。

2) AFICATの進捗：②日本国内の活動

本邦企業の関心拡大に向けた活動を実施。

※**農業分野**に関して、JICAが持つ知見とネットワークを活用し、現地パートナーと共に、**本邦企業のアフリカ進出をお手伝い**します（情報提供などは**無料**。企業の要望によるセミナー開催や実証試験など、費用が発生する場合は企業様に実費をご負担いただきます）。

現地の政府・民間組織・
販売代理店候補などとの
関係構築支援

- ・ 農業省など政府関係者や商工会議所など現地関係者の紹介・面談の実施支援

※通訳・資料翻訳は行いません。



農業・農業機械/資材、
主要金融機関などの
現地情報提供

- ・ コメや主要作物の生産や加工の概要
- ・ 主要な金融機関などの情報



企業様のオンライン含む
セミナー・デモ・
実証試験の実施支援

- ・ 開催地、招待者などセミナーやデモ実施に向けた相談
- ・ 実証委託先候補に関する情報を提供

※開催に係る費用は企業様の負担になります。



2) AFICATの進捗：②日本国内の活動

JICA内外の有識者による支援体制

	所属先／役職	氏名
1	(株) 新農林社 代表取締役社長	岸田義典氏
2	(一社) 日本農業機械工業会 (日農工) 専務理事	石井伸治氏
3	(一社) 日本農業機械化協会 専務理事	藤盛隆志氏
4	新潟大学自然科学系教授／元農業食料工学会農機部会長	長谷川英夫氏
5	(独) 国際協力機構 国際協力専門員	大石常夫氏

JICA内部での定例会 (本フェーズからの取り組み)

- ・各国のアドバイザー／JICA事務所、JICA経済開発部、AFICAT調査チームによる月例定例会

2) AFICATの進捗：②日本国内の活動

1) 情報交換会（本フェーズからの取り組み）



↑第5回ケニア情報交換会
参加申込フォーム



↑4月11日第1次メ
タンザニア国スタディツアー
参加申込フォーム

情報交換会	登壇者
第1回ケニア編 (2024年7月10日)	<ul style="list-style-type: none">元農業機械化アドバイザー戦略的農業開発アドバイザー
第2回ナイジェリア編 (2024年8月30日)	<ul style="list-style-type: none">FMAFS連邦農業局局長国家農業機械化センターセンター長ナイジェリア産業鉱物農業商工会議所
第3回タンザニア編 (2024年10月2日)	<ul style="list-style-type: none">農業機械化アドバイザーチームJICAタンザニア事務所
第4回コートジボワール／セネガル編 (2024年12月17日)	<ul style="list-style-type: none">コートジボワール国主要作物・畜産物サプライチェーン強化のための情報収集確認調査チーム国際協力専門員セネガル国農業・農村開発ツーステップローン事業準備調査チーム
第5回ケニア編 (2025年4月8日)	<ul style="list-style-type: none">AFICAT委員会（ケニア） <p>参加者募集中！</p>

2) 国内展示会出展（本フェーズからの取り組み）

- ・農業WEEK（2024年10月）
- ・海外ビジネスEXPO（2024年10月）

3) タンザニア国スタディツアー（農業分野）（本邦企業対象）（本フェーズからの取り組み）**参加者募集中！**

- ・2025年6月30日（月）から7月4日（金）
- ・2025年3月5日（水）事前説明会実施済
- ・4月11日（金）応募メ切（第1次）（詳細はAFICAT調査チーム（aficat.team@kmcinc.co.jp）へご連絡ください）⁷

2) AFICATの進捗：②日本国内の活動

4) 本邦招へい

- ・ AFICAT主要支援5カ国から、政府代表、民間代表、計10名を招へい
- ・ 2025年5月19日（月）から23日（金）に開催
- ・ **2025年5月22日（木）午後に、本邦企業向けにビジネスフォーラムを開催**

5) 有識者による現地視察

- ・ コートジボワール、2025年7月28日（月）から8月1日（金）
- ・ **JiPFAセミナー：8月4日の週で調整中**

6) AFICAT委員会（ケニア）/ASNETによるケニア関係者向けセミナー（本フェーズからの取り組み）

- ・ 本邦企業に登壇いただき、ケニア関係者に製品・技術を紹介（現地関係者を対象としたセミナー）
- （類似のイベントを他国でも検討中。）



2023年5月に実施したAFICAT本邦招へいの様子。
この後、同会場で名刺交換会を実施。

2) AFICATの進捗：③各国での活動

展示会出展（パイロット活動期間はタンザニアのみであったが、本フェーズでは5カ国で順次参加）

※2025年も各国で類似のイベントに参加予定

時期	国	展示会名	備考
1 2024年7月	タンザニア	国際見本市 (サバサバ)	東アフリカ最大規模の国際見本市（例年20万人ほどが来場）。在タンザニア日本大使館/JICAらによって、ジャパンゾーンが設置（2025年もジャパンゾーンが設置予定）。
2 2024年8月	タンザニア	農業祭（ナネナネ）	タンザニア国内7カ所で開催。ムベヤ会場に出展。
3 2024年9月	ルワンダ	AFSF 2024	Africa Food System Forum。アフリカ全体のハイレベルなフォーラムで、2023年はタンザニア、2024年はルワンダで開催。毎年、70カ国以上から3,000人以上が参加（2025年はセネガルで開催予定）。
4 2024年10月	ケニア	ケニアエンジニア学会	Institution of Engineer of Kenya (IEK)。
5 2024年11月	ガーナ	農民の日	毎年12月第一金曜日に開催されるイベント（2024年は大統領選挙のため11月に開催）。
6 2024年11月	ナイジェリア	AAMETEX	African Agricultural Machines/ Equipment and Technology Expo。連邦農業食料安全保障省が中心となり実施。



タンザニア農業祭では現地代理店の協力によりトラクタ/耕耘機も展示



AFSFでは本邦企業スタッフも製品紹介



ナイジェリアAAMETEXではAFICATブースに加え、本邦企業によるブース出展もあり



ケニアIEKでは、AFICATブースに加え、本邦企業/現地パートナーによる実機・製品展示あり



ガーナ農民の日では農業大臣（当時）がAFICATブースを訪問

2) AFICATの進捗：③各国での活動

常設の展示室（AFICATショールーム）を設置 **（コートジボワールで展示スペースを新たに確保）**



ケニア
ジヨモ・ケニヤッタ農工大学 (JKUAT)

※JICA技術協力プロジェクト実施中

主な訪問者：

大学教員、農工学部学生、政府関係者など



MAP

タンザニア
キリマンジャロ農業研修センター (KATC)

※JICA技術協力プロジェクト実施中

主な訪問者：

農民、農民組合、学生、政府関係者など



MAP

コートジボワール **(NEW!!)**
商工会議所

※AFICAT委員会

主な訪問者：

幅広い現地企業・政府関係者など

参加費用：無料（資機材やチラシなどの輸送手配／輸送費の支払いなどは企業様の負担になります）

対象企業：農業資機材メーカー（農業系IT、アプリケーションソフトなどを含む）

展示内容：農業資機材（製品）、プロモーション動画、企業紹介パンフレット、製品カタログ・チラシ、企業担当者の名刺、写真など

2) AFICATの進捗：④活動進捗

	補足	(パイロット期間)	本フェーズ
1	AFICATを活用した企業数（5カ国を通して）	本邦企業 （36社→） 現地企業	35社（累計55社） 4社
2	AFICATの支援で実施された面談／セミナー／実証／やデモン ストレーションなどで現地に紹介された農業生産性向上、収益 性向上に裨益する製品・技術の数（企業の数）		15件
3	AFICATの支援で実施された面談／セミナー／デモンストレー ション／実証などの回数		21件
4	AFICATの支援で実施された面談／セミナー／デモンストレー ション／実証などの参加人数(現地)		81人
5	AFICATの支援で実施された展示会の訪問人数（現地）		1,015人
6	AFICATの支援で実施された展示会の訪問人数（日本国 農業WEEK/ 内）	海外ビジネスEXPO	172人
7	AFICATのメーリングリスト登録数（日本国内向け）	（309→）	591
8	AFICAT情報交換会参加者数		246

※AFICATを活用する本邦企業の数が増加している（特に日本国内の展示会出展以降）。

※アフリカの現地関係者からの問い合わせも徐々にできてきている。

※面談/セミナー実施など、随時、対応している。

※現地で実施される展示会は現地関係者で運営ができつつある（ただし、本邦製品に対する知識/一般的な知識がより必要）。

※情報交換会も好評。参加者も毎回50人++。情報交換会後には任意参加（実費負担）の懇親会も開催。

2) AFICATの進捗：⑤現地からの問い合わせ対応/AFICAT MLの活用

<日本から現地への問い合わせ>

- AFICAT調査チームから現地にいるJICA専門家（アドバイザー）/JICA事務所へ問い合わせ、JICA専門家（アドバイザー）/JICA事務所から適宜、AFICAT委員会/AFICAT事務局などと調整し、回答を得る仕組みを試行中。

<現地からの問い合わせ対応>

- 幅広い本邦関係者の知見が必要な時は、AFICAT メーリングリストを活用し、関連する情報を収集する仕組みを試行中。

国	現地関係者からの問い合わせ
ケニア	<ul style="list-style-type: none">大規模精米所から籾殻を活用できる機械を製造する本邦企業の紹介依頼あり。農業省農業次官よりジャンボタニシ（スクミリングガイ）対策に関する技術の紹介依頼あり。
ナイジェリア	<ul style="list-style-type: none">現地企業から本邦農機（トラクタなど）を調達したいので、本邦企業の紹介依頼あり。
ガーナ	<ul style="list-style-type: none">現地企業から本邦農機（耕うん機）がどこで購入できるかJICA事務所に問い合わせあり。現地NGOから、当該NGOが連携を希望する本邦企業/本邦NGOのリストが提供された。

※日本から現地、現地から日本への情報発信/情報交換の仕組みを試行中。

※AFICATのメーリングリストを通じて、本邦製品/技術に関する情報を得られる仕組みができるか、引き続き試行する。